

又岳珂愧郗錄云政和三年詔改公主爲帝姬郡主爲宗姬縣主爲族姬按姬婦人之美號故宋人取以爲帝戚之稱也略○中漢書文帝紀注引如淳史記齊太公世家索隱並云姬衆妾之總稱與此義同〔日本釋名中人品〕姬ヒひいでたるめなり女をほめていふことば也字書に姬は女子の美稱といへるがごとし、

〔倭訓栞前編三〕いらつめ。日本紀に郎女郎姬娘子をよみ娘また嬢また媛もよみまた大郎女大嬢子なども見えたりいらつひともよめり。

〔皇都午睡三編上〕女の總名を男よりタポと云ふ

〔伊呂波字類抄疊比〕美人

〔松屋筆記六十七〕好男美男

好男美男いづれもヨキヲトコと訓めど好男は形貌の美醜にはよらず好聞の男子をいへり美男は美貌の男にて俗に云色男などの類なり皇明通紀二の卷六十洪武三年の條に元滅其臣擁兵屢征不下者惟王保々耶擴廓帖木兒也上嘗獲家屬厚恩以招徠之終不至一日大會諸將問曰今天下孰爲好男子或對曰常遇春領兵不過十萬所向克捷足以當好男子矣上笑曰未若王保々斯眞所謂好男子也上意蓋欲倡勇敢使諸將憤發圖之耳後保々走沙漠不知所終云々此文に据て好男子の義分別すべし

〔空穂物語後陸一〕なやむこともなくてひかりかゝやくをのこをうみつむまれおつるすなはち女をのがぬのふところにいできてはにおさくみせずたゞ乳のまするおりばかりゐてきてをひかづきやしなふ君はことになやむところなくしておきゐたり略○中かゝるほどにこのは、ぎみわびしきこといやますくにおぼえてこのおやにさへなりておもひこがるにこの子やしなひもてゆくまゝにたまひかりかゝやきてみゆればあはれおほおはせましかば